



「全国学力・学習状況調査」の結果 ～ 結果にもとづく「改善」に向けて！～

3年生を対象に、4月18日（火）に実施されました「全国学力・学習状況調査」のうち、「学力調査」（国語・数学・英語の3教科）の分析結果をお知らせします。3年生には、各学級ですでに個票を配布しています。問題ごとの正解・不正解、問題の内容等が詳しく記載されていますので、点数のみに振り回されることなく、どこでどうつまづいたかなどをしっかりと振り返り、見直してください。

また、この結果を分析し、各教科での課題とその改善策について、これからの授業改善に活かし、生徒の学力向上に努めます。各ご家庭でも、家庭学習について子どもたちへの働きかけをお願いいたします。

全国学力調査（国語・数学・英語）とは？

①身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響をおよぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容。この①・②を一体的に問う調査となっております。

※なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一つの側面です。

1. 学力に関する調査結果について

今年度の全国学力調査（国語・数学・英語）の平均正答率

- ◎ 国語は、全国の平均正答率（69.8％）と比べると、3.2ポイント上回っていました。（73％）
- 数学は、全国の平均正答率（51.0％）と比べると、6.0ポイント上回っていました。（57％）
- 英語は、全国の平均正答率（45.6％）と比べると、4.4ポイント上回っていました。（50％）
- 無回答率は、国語・数学・英語ともにほぼ全問題について、全国平均を大きく下回っていました。国語においては6問、数学においては1問、英語においては10問で無回答率0％でした。

【国語】今年度の全国学力調査の結果分析概要

全体的に無解答率は低く、記述の問題に対しても意欲的に取り組み、具体的に記述できていました。「言葉の特徴や使い方」や「話すこと・聞くこと」の設問は正答率が高くなっています。授業で言語活動を取り入れている成果が出ているといえます。正答率が低かった設問は、「書くこと」（思考・判断・表現）58.6％、「漢字を書く」（知識・技能）40.1％、「読むこと」（思考・判断・表現）54.4％などでした。また、「読むこと」は無解答率がやや高かった設問ですが、全国平均の無回答率と比較すると全国平均より7.6ポイント高い結果となりました。

普段の授業から根拠をもとに書くことを意識し、推敲・見直しを習慣づけることが大切です。言語における定着・活用に課題があるため、文脈に即して正しい漢字を書くことができる力を伸ばしたり、同訓異字・同音異字の問題に慣れていく必要があります。実生活で活用できる語彙力を養うことで、書くことへの苦手意識も払拭させていきます。

【数学】今年度の全国学力調査の結果分析概要

「数と式」（知識・技能）の問題では、「数と整式の乗法の計算」（86.5％）や「問題場面における考察の対象を明確に捉える」（91.1％）という趣旨の問題においてそれぞれ高い正答率でした。しかし、「図形」に関する問題では、3問とも正答率40％を下回っており、そのうち2問は全国平均より正答率が低く、選択式で無回答率が低い（0.4％）とはいえ、じっくり問題を読み解く必要があります。

思考力・判断力・表現力の問題において、5問中2問が50％を下回っており、基礎・基本の定着を図る必要があります。

基礎的な計算力が身につけていない生徒もおり、応用問題を解き慣れていない生徒も多いようです。今後は、二次方程式など計算力をより必要とする分野があるため、授業中に計算に取り組む時間を確保し、相似など図形分野で応用力をつけるような演習を取り入れ定着を図っていきます。

【英語】今年度の全国学力調査の結果分析概要

全問題における全国の平均正答率は 45.6 %であったのに対し、本校の正答率は 50.0 %でした。記述式の問題は、いずれも思考力・判断力・表現力を問う「書くこと」の問題であり、全国平均より高いとはいえ、30.8 % (全国 19.5 %)、9.3 % (全国 7.4 %) と正答率が低く課題があります。「聞くこと」の選択式の問題では、正答率の差があり、79.3 %の問題もあれば、45.1 %の問題もありました。「話すこと」における全国平均 12.4 %に対し、本校は 19.0 %でした。「動物園でのやりとりの中で、留学生の質問を受け、象の誕生日を伝える」問題では、全国平均 19.9 %に対し、本校は 45.5 %でした。「動物園でのやりとりの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する」問題は、全国平均 13.4 %に対し、本校は 7.6 %でした。

今回の分析から、長文読解や聞くことのアウトプットに課題があるため、長文読解では1学期に取り組んできた短文の読み取りを継続し、長文につなげ内容理解からアウトプットにつながる活動に発展させる必要があります。聞くことにおいては、教科書の長文のQ&Aをリスニングで導入しアウトプットにつなげていき、思考力・判断力・表現力の向上を目指します。

2. 学習状況調査について

学習状況調査とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査のことです。その中の一部の結果を報告します。

- ・「朝食を毎日食べていますか。」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は91.2%で全国平均と同じでした。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は70.3%(全国平均78.0%)でした。昨年より上昇したがまだ、全国よりは低い。
- ・「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は90.8%(全国平均91.3%)でした。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は、昨年より13.5ポイント上昇し、85.8%(全国平均80.0%)でした。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は94.5%(全国平均94.6%)でした。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は79.1%(全国平均81.8%)でした。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は94.6%(全国平均95.5%)でした。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒は47.2%(全国平均55.0%)でした。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問では、「2時間以上」が35.2%(全国平均33.7%)でした。
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」という質問では、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた生徒は、86.6%(全国平均61.1%)でした。

生活習慣にかかわる内容では、起きる時間にはあまり差はありませんが、寝る時間に課題がありました。また、計画的に家庭で取り組む学習にも課題がありました。受験勉強に取り組むうえでも、規則正しい生活リズムが基盤になります。学校でも家庭学習を計画的に行うよう意識づけを行い、教科間・学年間連携を図り、3年生を対象とした補充学習、個別学習、放課後学習等の充実に努めてまいります。ご家庭でもなお一層の取り組みをお願いいたします。また、「自分には良いところがある」という自己肯定感にかかわる内容では、昨年度の数値や全国平均を上回っており、自分に自信が持てる生徒が増えました。今後も、一人一人の良さを認め、日々の授業や行事、部活動等を通して、達成感や充実感を味わうことで、さらに自信をつけることができるよう取り組んでまいります。